

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

				令和	4	年度
事業番号	188		事業名	放課後児童クラブ運営費		
担当課	学校教育課	担当係	学校教育係	担当者	石田 智子	
総合計画に最も関連ある施策	施策	2	やすらぎといきがいのあるまちづくり	連絡先	0858-84-1231	
	施策体系	4	子育て支援の充実	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規	
	主な事業	放課後児童クラブ運営事業			<input checked="" type="checkbox"/> 継続	
予算区分	款	3	民生費	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町	
	項	2	児童福祉費		<input type="checkbox"/> その他	
	目	1	児童福祉総務費	計画期間	開始	—
	事業	188	放課後児童クラブ運営費		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 子育てをする保護者とその子ども					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 子どもを安心して産み、育てやすい環境づくりを推進するため、放課後児童クラブの充実を図る。					
事業の内容・手段	事業の規模や業務量など、どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 民間の活力を導入することにより、子どもの健全育成に関する専門的な知識と経験やノウハウを取り入れ、支援員の労務管理や人材の確保・養成力を徹底し、安定した運営と子どもと保護者のニーズに対応したサービスの提供を行う。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 子育て支援の質の改善と向上、量の拡充を進め、安心した子育て環境の提供と支援体制を確立する。					
根拠法令等	1,3,4	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	児童福祉法、放課後児童クラブ施設条例・施行規則

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	人	利用児童数(通年)			
	B	人	利用児童数(夏季児童クラブ含む)			
	C	回	支援員研修			
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	A	%	児童加入率			
	B	%	児童加入率			
	C	人	支援員参加者			
	D					

4 コスト

区分	単位	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度		R5年度	
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
活動指標	A	人	191	191	220	196	250	177	250
	B	人	252	240	220	236	250	226	250
	C	回	6	4	5	3	5	13	5
	D								
成果指標	A	%	24	24	28	25	28	27	28
	B	%	32	30	28	30	28	30	28
	C	人	103	84	90	68	90	260	90
	D								
トータルコスト	千円	31,656	32,975	30,859	32,328	37,075	35,595	100,695	
担当職員数	人	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	
職員人件費	千円	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	
事業費	千円	28,456	29,775	27,659	29,128	33,875	32,395	97,495	
事業費財源内訳	千円								
国庫支出金(交付金・補助金)	千円	9,065	11,743	9,219	9,294	10,855	9,521	28,618	
県支出金(交付金・補助金)	千円	9,065	9,015	9,219	9,294	10,855	9,521	28,618	
地方債(借入金)	千円							28,600	
事業収入(使用料・参加費等)	千円								
一般財源(単町費)	千円	10,326	9,017	9,221	10,540	12,165	13,353	11,659	

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 4 年度

実施活動内容・成果(到達点)	<p>実施活動内容(具体的に)</p> <p>・仕事等で保護者が昼間家庭にいない小学生を対象にした放課後児童クラブを町内4施設(7支援)において放課後の時間帯に実施し、適切な遊びや安心して過ごせる生活の場を提供した。令和4年度から船岡児童クラブを1支援増やし、船岡図書館2階で運営した。利用児童数は全支援で177人であった。また、夏休み期間中の夏季児童クラブを既存施設で実施し、利用児童数は49人であった。</p> <p>成果(具体的に)</p> <p>・保護者の子育てと就労の両立支援及び子どもの健全な育成を図った。また、民間事業者が運営を行うことで、放課後健全育成事業の質の向上と運営の安定化が図られ、保護者の負担が軽減された。夏季児童クラブでは、支援ごとに数回の昼食を業者に委託し、保護者の負担軽減につながった。</p>
----------------	---

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	・保護者の子育てと就労の両立支援のため、保護者が家庭にいない時間帯に子どもが安心して過ごせる居場所づくりの提供は必要性の高い事業である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	・子ども・子育て支援法第59条第1項第5号に規定する放課後児童健全育成事業の一つとして、市町村子ども・子育て支援事業計画に盛り込まれており、町が実施(公設民営)することが妥当である。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無い)	13	20	①効率的である	・放課後児童クラブ運営業務委託公募型プロポーザル方式による事業者選定により、実施内容及び費用にかかる評価も実施し、効率性にも配慮している。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	・長期休業中を含めて利用希望児童が増加傾向にあり、保護者の子育てと就労の両立支援のためにも、優先度の高い事業である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	・施設の増設、民間業者への運営委託により、事業の質の向上と運営の安定化が図られ、児童が安心して生活できる居場所確保と保護者の子育てを支援することができた。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	
合計	79			

7 町の方向性・方針

事業の方向性	問題点及び今後の課題・方向性
1 拡充する	<p>(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所)</p> <p>・夏季児童クラブでは八東小学校や郡家西小学校の利用希望児童が増加している中で、八東学童クラブの老朽化やわんぱく児童クラブの定員数の問題がある。また、通年、特別な支援を必要とする児童の入会について、保護者を含め他関係機関との連携の必要性が課題である。</p> <p>(上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか)</p> <p>・待機児童が出ないような施設設置を展開する。また、支援員研修の実施により、支援員の資質向上を図り、適正な支援につなげる。</p>
2 改善・効率化し継続	
3 現状維持	
4 見直しの上縮小する	
5 終期設定し終了	
6 廃止	